

資料7

久留米市セーフコミュニティ
高齢者の安全対策委員会

発表日 2023年7月31日
発表者 高齢者の安全対策委員会委員長 濱本 孝弘
所 属 公益社団法人 福岡県作業療法協会

住みやすさ日本一

みんなで取り組む安全安心まちづくり

1

2 高齢者の安全対策委員会の構成メンバー（2022年現在）

区 分	所 属
住民組織等	1 久留米市民生委員児童委員協議会
	2 久留米市老人クラブ連合会
	3 (社福) 久留米市社会福祉協議会
	4 (公社) 福岡県作業療法協会
	5 (特活) 久留米介護福祉サービス事業者協議会
	6 (一社) くるめ地域支援センター
	7 久留米市校区まちづくり連絡協議会
	8 (特非)にここ会
関係機関	9 久留米警察署（生活安全課）
	10 久留米広域消防本部（救急防災課）
行政機関	11 久留米市健康福祉部地域福祉課
	12 久留米市健康福祉部介護保険課
	13 久留米市健康福祉部保健所健康推進課
	14 久留米市健康福祉部長寿支援課

みんなで取り組む安全安心まちづくり

3

1 高齢者の安全対策委員会の設置の背景

「2011年度取り組み開始時」

転倒に対する不安が大きく、
ケガの原因の半数以上は転倒

転倒リスクの周知や
転倒予防の対策が必要

被虐待者は認知症高齢者が多く、
虐待事例の多くが同居の親族に
よるもの
虐待について、正しく理解できて
いない人が多い

虐待の早期発見・予防に
向けた取り組みが必要

セーフコミュニティで対策を行う

2012年3月 高齢者の安全対策委員会設置

みんなで取り組む安全安心まちづくり

2

3-1 データに基づく課題（転倒予防）

【図表1】65歳以上の人がケガをした原因

転倒 50%

転落 9%
接触・衝突 8%
鋭利なものへの接触 6%
重いものを持った 7%
交通事故 3%
モノの落下 3%
虫などにさされた・蛇などに噛まれた 3%
熱いものに触れた 3%
その他 6%
無回答 2%

高齢者がケガをした原因の5割は転倒

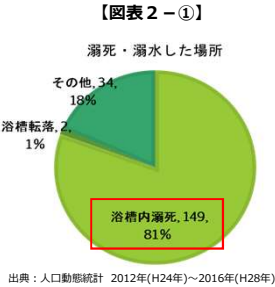
みんなで取り組む安全安心まちづくり

4

3-2 データに基づく課題（転倒予防）

【図表2】年齢層別 不慮の事故等による死亡 ※（ ）内は人数
（出典：人口動態統計、2016～2020の5年間の累計）

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
60～69歳	自殺	溺死・溺水（21）	その他	窒息	交通事故
70～79歳	溺死・溺水（52）	自殺	窒息	その他	転倒・転落（13）
80～89歳	溺死・溺水（83）	その他	転倒・転落（33）	窒息	自殺
90歳～	転倒・転落（45）	溺死・溺水（28）	窒息	その他	自殺



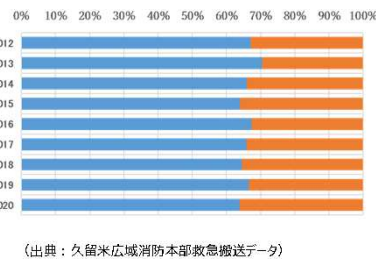
高齢になるほど**転倒・転落、溺死・溺水**による死亡が多い。
溺死・溺水の8割は、家庭内の浴槽で発生。

3-4 データに基づく課題（転倒予防）

【図表4】転倒による救急搬送数（年齢別内訳）



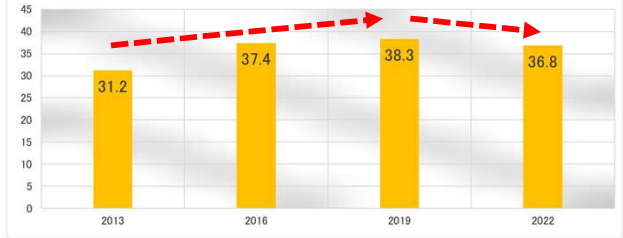
【図表5】転倒場所の割合 ■屋内 ■屋外



高齢者の転倒による救急搬送は増加傾向にあり、
転倒の場所は**6割以上が屋内**である。

3-3 データに基づく課題（転倒予防）

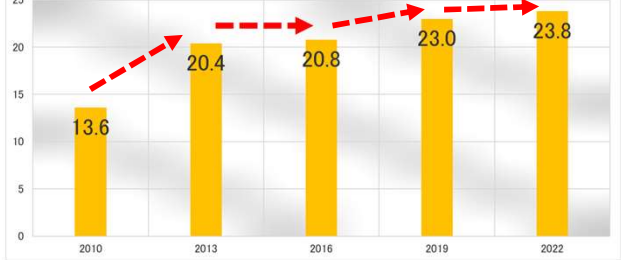
【図表3】過去一年に転んだ経験がある高齢者の割合
（出典：久留米市高齢者実態調査）



過去一年で高齢者の**約4割の方が転倒**している

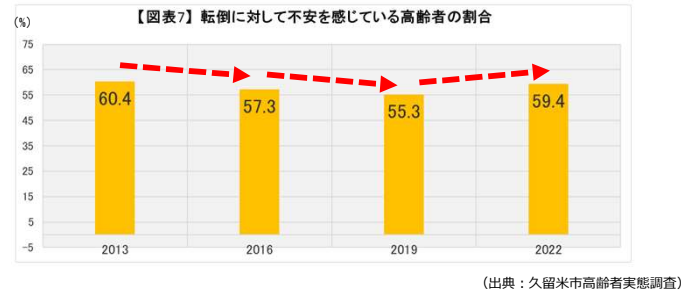
3-5 データに基づく課題（転倒予防）

【図表6】介護・介助が必要になった原因が骨折・転倒の割合
（出典：久留米市高齢者実態調査）



介護・介助が必要になった原因として、
骨折・転倒の割合が増加している。

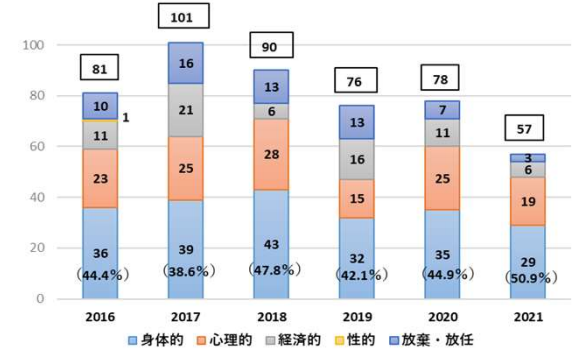
3-6 データに基づく課題（転倒予防）



半数以上の高齢者が転倒に不安を感じている

4-1 データに基づく課題（虐待防止）

【図表8】久留米市の高齢者虐待件数の推移 (出典：2014～2021年長寿支援課統計)



高齢者の虐待の約半数は、「身体的虐待」

3-7 課題の整理（高齢者の転倒予防について）

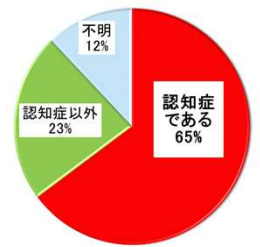
- 高齢者の転倒は介護・介助が必要になるリスク大...
- 転倒・転落、溺死・溺水による死亡が多い
- 高齢者の転倒の増加
- 転倒は身近な場所で多く発生
- 転倒に対する不安の大きさ

- ... 高齢者のケガの原因の5割は転倒【図表1】
介護・介助が必要になった原因として、骨折・転倒の割合が増加【図表6】
- ... 高齢になるほど転倒・転落、溺死・溺水による死亡が多い【図表2】
- ... 過去一年で約4割の方が転倒している【図表3】
高齢者の転倒による救急搬送は増加傾向【図表4】
- ... 高齢者の転倒場所の6割以上が屋内【図表5】
- ... 半数以上の高齢者が転倒に不安を感じている【図表7】

転倒予防に取り組む必要がある

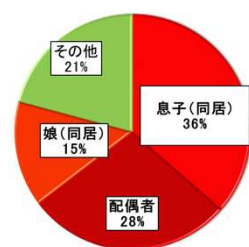
4-2 データに基づく課題（虐待防止）

【図表9】被虐待者における認知症の有無



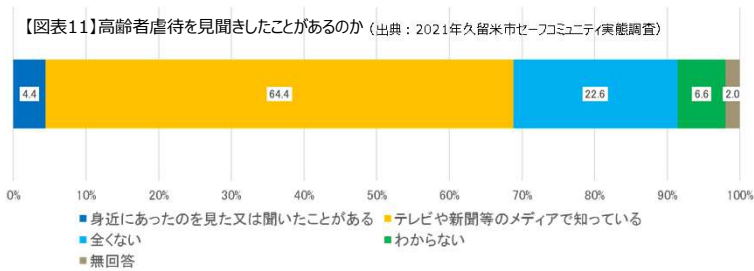
被虐待者の約6割に認知症の症状がある

【図表10】虐待者の構成



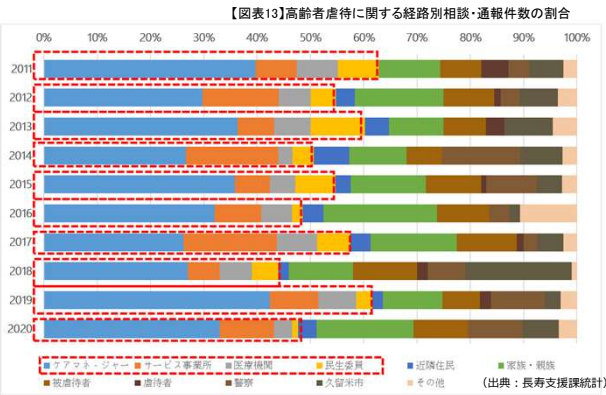
虐待事例の7割以上が同居親族によるもの

4-3 データに基づく課題（虐待防止）



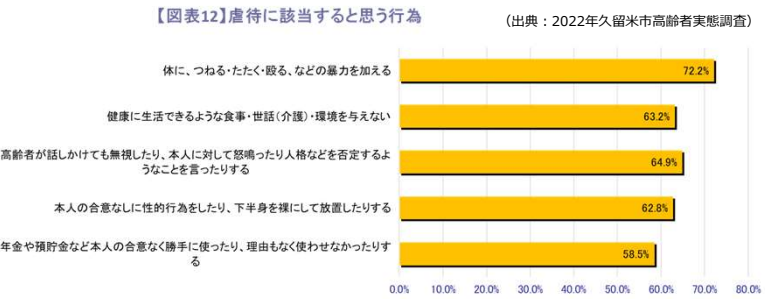
約3割の人が高齢者虐待について見聞きしたことが「全くない」「わからない」

4-5 データに基づく課題（虐待防止）



ケアマネージャーやサービス事業者、医療機関、民生委員からの通報の割合は約6割である。

4-4 データに基づく課題（虐待防止）



虐待について正しく理解できていない人が多い

4-6 課題の整理（高齢者の虐待防止について）

○ 高齢者虐待と認知症との関連

...

被害者の約6割が認知症【図表9】

○ 同居親族による虐待事例の多さ

...

虐待事例の7割以上が同居親族によるもの【図表10】

○ 虐待に対する意識の低さ

...

約3割の人が高齢者虐待について見聞きしたことが「全くない」「わからない」【図表11】
虐待を正しく理解できていない人が多い【図表12】

○ 本人や家族からの相談・通報の少なさ

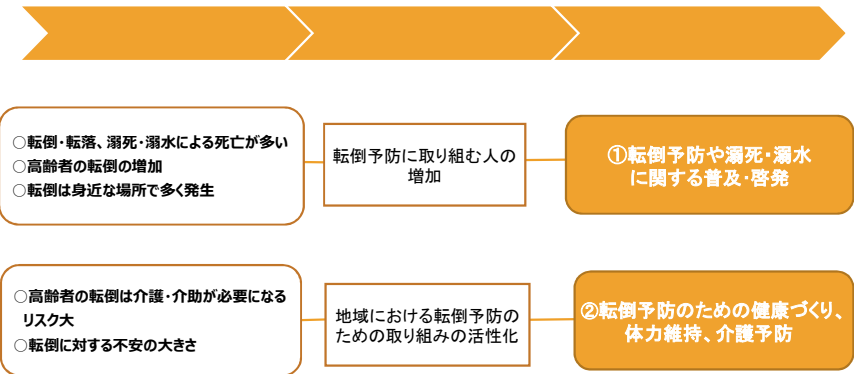
...

ケアマネージャーやサービス事業者、医療機関、民生委員からの通報の割合は約6割【図表13】

↓

虐待防止の啓発および虐待の早期発見に取り組む必要がある

5- 1 課題解決のための目標と具体的施策

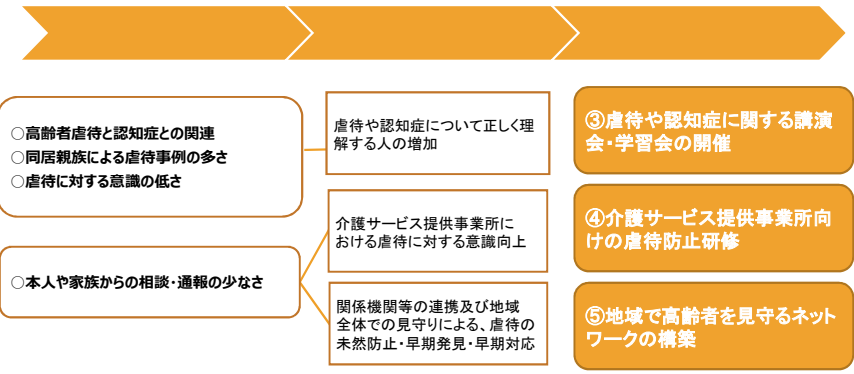


6-1 レベル別の対策

【図表14】

具体的施策	対 策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発	教育・啓発		窓口・イベント等での周知 【対策委員会】 転倒予防パンフレットの作成・配布	関係団体による研修等
	規制			
	環境整備		介護保険住宅改修の補助事業	
転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防	教育・啓発		介護予防事業、ラジオ体操の推進 【対策委員会】 介護予防プログラムの実践	ウォーキング大会、介護予防の取り組み
	規制			
	環境整備	介護予防事業の見直し	介護予防の講師派遣 インターネットを活用した介護予防	

5- 2 課題解決のための目標と具体的施策



6-2 レベル別の対策

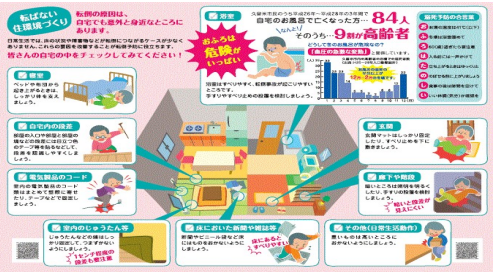
【図表15】

具体的施策	対 策			
	方向性	国県レベル	市レベル	地域レベル
虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	教育・啓発	認知症施策推進大綱	認知症サポーター養成、家族介護教室 【対策委員会】 キャラバン・メイトとしてサポーターを養成、家族介護教室の講座を実施	認知症サポーター養成
	規制			
	環境整備	高齢者虐待防止法	認知症予防地域講演会	
介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修	教育・啓発		介護サービス提供事業者向け研修 【対策委員会】 虐待防止研修の実施	地域や関係機関からの通報
	規制			
	環境整備	高齢者虐待防止法		
地域で高齢者を見守るネットワークの構築	教育・啓発		高齢者の見守り、地域ケア会議 【対策委員会】 虐待通報や相談への対応、地域ケア会議への出席	高齢者の見守り、地域ケア会議
	規制			
	環境整備		ネットワーク構築	

7-1 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発】

転倒予防パンフレットの改定



データの更新やイラストを分かりやすく改定。また、入浴時の危険(溺死・溺水)を追加し、ヒートショックの予防について記載した。

7-3 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防】

にこにこステップ運動(教室型・講師派遣型)



介護予防のきっかけづくりとする教室を開催。また、教室参加者を中心に結成された自主グループが、運動を継続的に行えるように、専門講師の派遣を実施。

7-2 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防や溺死・溺水に関する普及・啓発】

介護保険住宅改修の給付事業



要支援・要介護認定を持つ方への保険給付事業。住宅への手すりや踏み台設置などに給付する。平成30～令和3年度で、延べ3,938件、約3億4,200万円を給付。

7-4 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防】

介護予防体操動画の作成

※コロナ禍の取り組み



「タオルDE こげんよか体操」の動画を作成し、いつでも視聴できるように市のHPへ掲載。DVD作成し、希望団体に配布。

7-5 具体的施策の紹介・成果

【転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防】

介護予防事業の拡充



ケア・トランポリン教室の拡充
や、屋外でのスロージョギング
教室の実施、自主グループ化
を支援した。

7-7 具体的施策の紹介・成果

【虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催】

家族介護教室の内容等の変更

教室の内容や、市公式LINEを
活用するなど広報方法につい
ても見直しを行い、参加者が増加
した。

教室参加者数
2017年度 72人
→ 2021年度 116人

プロに学ぶ！

開催日時	内容	講師
10月14日（土）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月15日（日）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月16日（月）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月17日（火）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月18日（水）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月19日（木）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月20日（金）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月21日（土）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月22日（日）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月23日（月）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月24日（火）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月25日（水）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月26日（木）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月27日（金）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月28日（土）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月29日（日）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月30日（月）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）
10月31日（火）10時～12時	高齢者に優しい介護（介護士）	介護士（市立介護福祉センター）

7-6 具体的施策の紹介・成果

【虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催】

認知症サポーター養成講座

5年間で
10,851人参加



7-8 具体的施策の紹介・成果

【介護サービス提供事業所向けの虐待防止研修】

介護事業所向け虐待防止研修

※コロナ禍の取組み



研修の実施方法
集合形式→オンライン

研修参加者数
2019年度 271人
→ 2021年度 413人

8-1 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

《転倒予防に関する普及・啓発》

指標	内容	2017	2018	2019	2020	2021	2022
短期	転倒予防対策の必要性を認識した人の割合 [参加者アンケート調査]	91.4%	90.9%	—	89.5%	89.6%	90.2%
中期	転倒予防対策を行う人の割合(無回答除く) [高齢者実態調査(3年毎)]	—	—	64.7%	—	—	64.5%
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	—	—	23.0%	—	—	23.8%

8-3 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

《高齢者虐待防止》

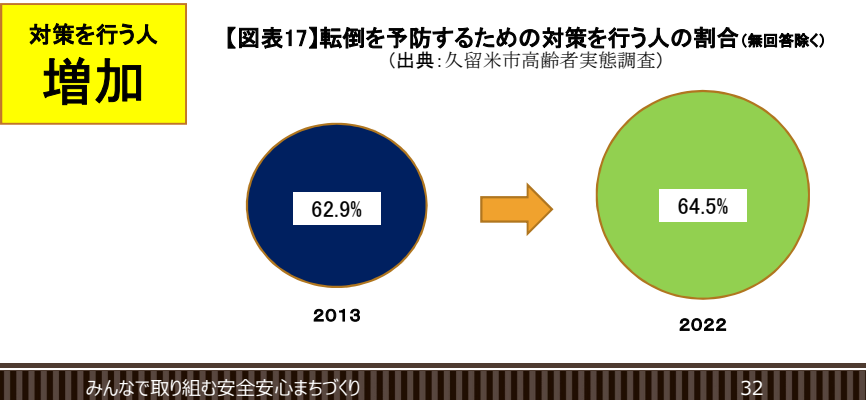
指標	内容	2017	2018	2019	2020	2021	2022
短期	虐待を正しく理解する市民の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	—	—	身体的73.2% 経済的68.7% 性的63.8% 介護放棄65% 心理的64.1%	—	—	身体的73.2% 経済的68.7% 性的63.8% 介護放棄65.0% 心理的64.1%
中期	地域や事業者からの相談や通報件数の割合 (/全通報件数中)[長寿支援課統計]	57.5%	59.8%	61.0%	47.7%	68.3%	集計中
長期	虐待発生率 [長寿支援課統計]	0.083%	0.077%	0.072%	0.062%	0.046%	集計中

8-2 具体的施策の取り組み成果（短期・中期・長期）

《転倒予防のための健康づくり、体力維持、介護予防》

指標	内容	2017	2018	2019	2020	2021	2022
短期	70歳以上で健康づくりのために運動している割合(1日30分以上、週2日以上) [市民意識調査]	56.7%	53.4%	53.8%	—	52.7%	集計中
中期	高齢者のけがの原因のうち「転倒」の割合[SC実態調査(3年毎)]	51.9%	—	—	—	49.5%	—
長期	「転倒・骨折」によって、介護・介助が必要になった高齢者の割合 [高齢者実態調査(3年毎)]	—	—	23.0%	—	—	23.8%

9-1 取り組みによる全体的な効果



9-2 取り組みによる全体的な効果

高齢者虐待の相談・通報件数は横ばい



ご清聴ありがとうございました。



高齢者の安全対策委員会

10 課題と今後の対応

【転倒予防・溺死、溺水予防】

- ◆さらなる転倒予防実践への働きかけの必要性
- ◆自主的な介護予防活動の拡大
- ◆自宅の浴槽での溺死予防に関する効果的な啓発

【高齢者の虐待防止】

- ◆認知症を正しく理解する啓発
- ◆家族介護の負担軽減

合同対策委員会についての振り返り（R5.3.24 開催）

- 概要
- 日時：令和5年3月24日13:30～15:00
- 会場：久留米シティプラザ 5階 大会議室
- 参加者：48人
- 内容：（１）報告：これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について
（２）ワークショップ
- もっと安全で安心な久留米を作るために、セーフコミュニティを浸透させる
→セーフコミュニティを伝えるために、私たちができることは？

（１）これまでのセーフコミュニティ活動の取組と今後の展開について

セーフコミュニティの目的 ＝ 久留米の安全・安心の向上



- 2回の認証取得でセーフコミュニティが定着し、対策委員会の取組を通して、久留米の安全安心は向上。
- 3回目の認証取得を機に、もっとセーフコミュニティを浸透させ、市民一人一人が安全安心を心がける町にしたい。
- しかし、これまで取り組んできたSCの広報啓発活動では、SCの浸透は困難（R3のSC認知度：23%）。
- また、R3年度のSC実態調査では、多くの人が安全・安心の活動に取り組みたいと考えているが、行動できていない結果も

もっと安全で安心な久留米 ◆多くの人がセーフコミュニティに参加する町
 ◆市民一人一人が安全安心を心がける町

- SCを浸透させ、安全・安心に取り組む人を増やすためには、できるだけ多くの情報を伝え続けることが大切

「私たちみんなの力で、セーフコミュニティを伝え続けていきましょう！」

(2) ワークショップ意見まとめ

個人で

- 家族や友人、子どもの友達、近所の人に話す
- 飲み会のときに話題に出してみる
- 出前講座を紹介する
- 関連するフェイスブックをシェアする、
- SNS（フェイスブック、インスタグラム）に SC について投稿する
- くるっぱの反射材をバッグに付けて、会った人に SC の話をする など

組織・団体の活動で

- 所属する団体で実施する活動、講演会・セミナーで SC についての話を入れる、紹介する
介護教室、防災活動、防災教室、救急講習会、児童虐待防止の講演など
- 出席する様々な会議で SC の情報発信し、他の団体組織に知ってもらう、働きかける
- 仕事で高齢者宅を訪れたときに、SC（転倒予防）についてアドバイスをする
- いきいきサロンの中で何ができるか話し合う
- 仕事などで出向いたところで SC の話をしてみる
- 自分の所属団体と関係がある施設に SC のチラシやパンフレットを置く
- 自分の団体のイベントや広報活動の際に、SC について啓発（チラシ、ブース、展示）
- 車にステッカーを貼る
- SC のベストを着て仕事をする
- 職場に SC のぼり旗をたてる
- 一緒に SC のキャンペーンを行う など

組織・団体の内部で

- 所属する団体の内部研修で SC の話をする、出前講座を実施する
- 職場の朝礼や会議、研修の場で SC について説明する、何ができるか話し合う、活動状況を報告する
- PTA や自治会の会議、活動の際に SC について話す
- 校区だよりに SC について載せる
- 掲示板にポスターを貼る
- 職員に SC について、SC の取り組みについて話をする
- 職員に家族に SC について話すよう依頼する
- 介護事業者を対象とした研修で SC について話す
- 主任児童員に周知する など

SC ロゴや記事を載せる

- 職場のメールに SC を加える
- 自分の団体で作る啓発チラシに SC のマーク、SC 動画の QR コードを入れる
- 自分の団体で発行する広報誌や HP に SC の記事を載せる
- 所属する組織が行う情報発信に SC を盛り込む
- 学校配布物に SC について記載する
- 職場で使用する封筒に SC マークを入れる

他にも

- 学生が参加するメッセージ動画を作る
- 入学式や卒業式で、子どもや親に話す
- 地域ケア会議で SC 目線のアドバイスをする
- SC を校区全体で取り組む
- 全世界的な取り組みであることを SC のグッズに記載する
- SC の歌を作る
- 事業所に一つずつ SC の PR をしてもらう
- 学校で子どもたちに SC の広報について考えてもらう
- 学校でワークショップを実施する
- SC と、カフェや病院、薬局とコラボする
- 久留米独自の共通の SC ロゴ・マークを作る
- Twitter でハッシュタグを付けて呟き、他市の SC と繋がる
- 事故事案が発生した直後、当事者意識が残っているうちに SC の講習会などを実施する
- 事務局が収集している統計数値を提供する
- 学校のトイレの扉を活用して安全のために必要なことを貼る

団体の集まり等では、是非、出前講座をご活用ください。出前講座に比べ、短時間で視聴できる動画の活用についてもご検討ください。

また、イベントや行事の際は、のぼり旗やチラシをご用意できます。

この他、団体の広報誌やチラシ、HPなどに掲載するSCロゴのデータや掲載内容など、「セーフコミュニティを伝えるためにできること」について、安全安心推進課にご相談いただければ幸いです。どんなことでもご相談ください。

みんなで力を合わせて、「もっと安全で安心な久留米」を作しましょう！



久留米市協働推進部安全安心推進課 担当：豊福、岡、浦部、古賀
〒830-8520 久留米市城南町 15-3 TEL：0942-30-9094 FAX：0942-30-9706
Email：anzen@city.kurume.lg.jp

校区、自治会相互の人間関係

職場内で情報を共有する

出前講座を紹介する

広報くるめに掲載する

介護予防チラシにセーフコミュニティのロゴを入れる

セーフコミュニティのステッカーを社用車、自家用車に貼り付ける。

自治会加入の促進

家族、友人に取組みを説明する。

仕事関係で外で話す際、話題にする

職場の広報誌でPR記事、コラム記事を掲載

庁内の各団体や組織への働きかけ、会議などを通して

家族に話す

関連するFBをシェアする

啓発月間を設けて各種イベントを

外国人との共生

友達に話をする

職員の家族に話をするよう依頼する

地域高齢者への呼びかけ、訪問活動

呼びかけをするためにサロン活動を実施していく。

高齢者G

がん検診

老人クラブで転倒しないように、あせらない様に気をつける

訪問時等の転倒予防アドバイス

雨天時や夜には自動車の運転はさける

受付窓口のいすを整える

のびのびポイントアプリ

グランドゴルフ練習時に高齢者であるため、転ばないようにする

ウォーキング

ラジオ体操

健康づくり計画

健康診断

健康づくり応援店

認知症介護体験は話せるかな

認知症家族の会のにこにこ会のLINEで今日のことを報告する

自施設利用者への案内

施設等へのパンフレットを置かせて頂く

家族にSCの話をする

近しい人に今日の話を話す

自治会でSCの話をする

介護教室での参加者へのご案内

川があふれそうになったら、コミセンに伝える

イベント時の周知（住民？）

地域ケア会議でのSC目線のアドバイス

介護事業者への研修企画

この年になってやりたいことは...？

朝、学生にあいさつをする

送迎中の見守り活動

スーパーで見守る

もし危険物でも見つけたら、公的機関に連絡する

ランニングしながら、パトロールをする